デート DV の実態の検討 (1)

— 恋人との関係における否定的側面の観点から —

○竹澤みどり¹・寺島瞳²・宮前淳子³・宇井美代子⁴・松井めぐみ⁵

(¹ 富山大学・² 筑波大学・³ 香川大学・⁴ 東京福祉大学・⁵ 岡山大学)

キーワード: デート DV, 恋人関係, 学生

A study of actual condition of Dating Violence (1): Approach from perspectives of negative aspects in dating relationships

Midori TAKEZAWA¹, Hitomi TERASHIMA², Junko MIYAMAE³, Miyoko UI⁴ and Megumi MATSUI⁵

(¹ Univ. of Toyama, ² Univ. of Tsukuba, ³ Kagawa Univ., ⁴ Tokyo Univ. and Graduate School of Social Welfare, ⁵ Okayama Univ.)

Key words: Dating Violence, dating relationship, student

目 的

内閣府 (2009) の調査によると, 10 歳代から 20 歳代の頃に, 女性の 13.6%, 男性の 4% が交際相手から “身体的暴行”, “心理的攻撃”, “性的強要” のいずれかをされた経験があることが明らかとなっている。その他, 大学生を対象とした実態調査は行われているが, そのほとんどがデート DV と考えられる具体的な項目を提示してその有無を問う方法で行われている。そのため, デート DV に当たる実際に行われている行為が網羅されているとは言い難い。そこで, より詳細にかつ包括的に現代の学生が交際相手からされて傷ついた・見下された・怖い・嫌だと感じた行為やその対処の実態を把握することを目的として, 自由記述調査を行うこととした。

方 法

調査対象者: 大学生・看護専門学生 158 名 (男性 28 名・女性 126 名)。平均年齢 19.8 歳 ($SD=1.04$)。

調査内容: ①基本情報 (性別, 家族との同居の有無, これまでに恋人がいた経験の有無など), ②恋人にされて精神的・身体的・性的に, 傷ついた・見下された・怖い・嫌だなどと感じた行為 (以下, 「恋人にされた行為」), ③その時の気持ち, ④その時の対処, ⑤その行為の後別れたか否か (③, ④は今回の分析では使用していない)。

調査手続き: 授業時間に質問紙票を配布し, 学生に自宅に持ち帰り記入した後に郵送にて返送してもらった。835 名に配布したうち 158 名から回答が得られた (回収率 18.9%)。

調査時期: 2010 年 1 月～2 月。

結 果 と 考 察

全調査対象者の 51.9% (男性 22 名・女性 58 名) が一人暮らしであり, 77.2% (男性 21 名・女性 97 名) がこれまでに恋人がいた経験のある人 (平均交際人数 2.3 人) であった。

158 名中 73 名 (46.2%) (男性 8 名・女性 62 名・不明 3 名) が「恋人にされた行為」について記述していた。このうち, 52.1% が一人暮らしであり, これまでの交際相手の人数は平均 3.0 人であった。また, 46.6% がこのような行為をされたのうちその相手との関係を解消していた。

全記述数は 140 であった。それらを心理学の教員 4 名によって KJ 法を用いてカテゴリー化した。その後, 心理学の教員 1 名と心理学を専攻する院生 3 名によってカテゴリー化の妥当性が確認された。その結果, 17 カテゴリーが抽出された (Table 1)。「見下し」は人格の否定, 説教, コンプレックスについての指摘などの見下したような言動, 「浮気」は自分以外の人も付き合うなどの行為, 「嫉妬・束縛」は極度の嫉妬や頻繁なメール, 電話による行動の詮索といった行為, 「ないがしろ・放置」は冷たい態度や急に連絡が取れなくなるなどの自分をないがしろにするような相手の行為, 「性的行為の要求」は望まない身体接触や性行為, 体だけの関係を求める言動, 「第三者への気のある素振り」は自分以外の人を良く言ったり, 仲良くしたりといった行為, 「約束の反故」は約束を破るなど

の行為, 「怒りをぶつける」は怒鳴ったり, 八つ当たりをしたりといった行為, 「趣味・主張の押し付け」は自身の趣味・好みや意見を押し付けてくるような言動, 「コントロール」は行動や意思決定について指図したり, 自傷行為によって相手をコントロールするような言動, 「関係解消」は別れをほめかす, または求めるような言動, 「身体的暴力」は物を壊すことも含めた暴力行為, 「性行為の強制」は拒否しているにもかかわらず性行為を無理強いされたり, 避妊をしないなどの行為, 「信頼関係の破綻」は嘘をつく, 隠し事をする, 自分のことを信用しないなどの行為, 「性格への嫌悪」は意志の弱さなどの自分が好ましく思わない相手の性格の特徴を表すような行為, 「第三者への迷惑行為」は自分以外の他者や友人に対して迷惑となる行為であった。

多くの研究において DV を精神的暴力 (怒鳴る, 束縛, 馬鹿にする, 無視など), 身体的暴力 (けがをさせる, 殴るなど), 性的暴力 (性的行為の強要, 避妊に非協力など) に分けている。本研究で抽出されたカテゴリーがすべて, DV に当たるとは言い切れないが, 本研究でも「身体的暴力」のカテゴリーが抽出され, 「見下し」「嫉妬・束縛」「ないがしろ・放置」「怒りをぶつける」「コントロール」などは精神的暴力に含まれ, 「性行為の強制」「性的行為の要求」が性的暴力に含まれると考えられる。身体的暴力に比べて精神的暴力に含まれるカテゴリーは多く, 実際に行われている精神的暴力は多種多様であることが推測される。そのため, 精神的暴力は比較的 DV と認識されにくく, 見過ごされやすいのではないかと考えられた。

Table1 各カテゴリー記述数

カテゴリー名	記述数
見下し	14(10%)
浮気	14(10%)
嫉妬・束縛	14(10%)
ないがしろ・放置	12(9%)
性的行為の要求	11(8%)
第三者への気のある素振り	10(7%)
約束の反故	8(6%)
怒りをぶつける	7(5%)
趣味・主張の押し付け	7(5%)
コントロール	7(5%)
関係解消	7(5%)
身体的暴力	6(4%)
性行為の強制	5(4%)
信頼関係の破綻	5(4%)
性格への嫌悪	5(4%)
第三者への迷惑行為	4(3%)
その他	4(3%)
合計	140